

令和4年度 施策評価シート

基本目標		「すみだ」らしさの息づくまちをつくる
政策	110	伝統文化を継承、発展させ、新たな文化・芸術を創造する
施策	111	郷土の歴史・文化を継承し、発展させる
施策の目標	すみだの歴史や文化に区民がふれることで、郷土に対する理解・愛着が深まり、さらに区民が将来にわたり伝統文化を継承、発展させ、文化財が大切に保護されています。	

1 基本計画における成果指標の状況

指標名	「伝統文化が保護、継承されている」と思う区民の割合									
	基準年(H28)	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
目標	71.6				77.0					80.0
実績					73.7					
指標名	「墨田区の歴史や文化を学んでいる」区民の割合									
	基準年(H28)	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
目標	24.1				39.0					50.0
実績					26.4					

2 目標と現状(実績)についての分析及び総事業費推移

指標の推移・施策の課題や問題点について記述	総事業費推移(千円)	
・すみだ北斎美術館については、平成28年11月に開館し、来館者数は目標を大きく上回っていたが、令和2・3年度はコロナの影響で減少している。今後も、北斎の魅力を伝える展覧会事業やイベント等の充実を図っていき、来館者数の増を目指す。 また、平成26年より開始した寄付キャンペーンについては、令和3年度は9億円を達成することができた。今後も、美術館の管理運営、資料収集等に充てることを目的に、継続して実施する。 ・北斎作品(浮世絵)の収集活動は、文化財保存の観点からも、発展的円滑な事業運営からも必要であり、可能な限り自館の収蔵資料数を増やせるよう収集に努めていく。 ・大江戸すみだ職人展は、来場者を増やすことを目的に、特に30年度から、北斎美術館に実施場所を変更しプロモーションを工夫したことにより、来場者の客層や数に変化があったと感じている。よって、現在の実施方法を更にブラッシュアップし、新型コロナウイルス対策をできる限り講じながら事業を継続していきたい。	R1	364,354
	R2	520,084
	R3	632,899

3 施策の評価及び判断理由

評価	理由
B	・すみだ北斎美術館は、新型コロナウイルスの影響により来館者数は目標値を下回ったものの、メディア掲載数は一定以上あり、コロナ禍においてできることを最大限実施し、情報発信を継続している点を評価した。今後については、来館者が増えるよう、努力していきたい。そのためには、企画展や教育普及活動等にて、よりすみだと北斎の魅力を発信していく必要がある。また、令和3年度の寄付キャンペーンは、返礼品を拡充したこと等により、目標額を大きく上回る約9億円の寄付金を集めた点を評価した。 ・大江戸すみだ職人展は、令和元年度に実施場所の変更やプロモーションを工夫(北斎美術館における実施、職人による実演や工芸品展示のほか、職人・制作品を紹介するパネルの展示と工芸体験の実施など)したことにより、従来より多くの方に関心を持っていただけたと感じており、それが3,802人の来場者数に繋がった。令和3年度については感染症対策を行いながら開催し、墨田の職人文化を広く伝えることができたことから、今後も行うべき事業として評価した。

4 今後の施策の運営方針

評価結果	施策の戦略的方向性
	(1) 優先的に資源投入を図る。
	(2) 現状維持とする。
	(3) 現状維持だが、より効率的な運営を図る。
	(4) 資源投入の縮小を図る。

【上記の判断理由】

・すみだ北斎美術館を、区の文化創造や地域活性化につながる施設になるよう、資料の収集保存、展示、情報提供、教育普及の事業活動を通じて地域文化の継承と発展の場として運営するため、今後も計画的な資料収集と美術館運営及び北斎に関するPRを行っていく必要がある。
 ・大江戸すみだ職人展は、令和2年度は感染症拡大防止のため中止になったが、平成30年度に会場を北斎美術館に変更し、開催日時を北斎美術館の企画展に合わせたことで実施結果が良好だったことから、現状をベースとしながらさらに工夫を凝らし、感染症対策を講じながら実施を継続したい。

【今後の具体的な方針】

・すみだ北斎美術館の円滑な事業運営を行うとともに、引き続き資料収集や寄付キャンペーンを行っていく。また、北斎及び北斎美術館について、国内外に向けて情報発信を継続して行っていく。
 ・大江戸すみだ職人展は、来場者と職人の距離が近いことがこの事業の大きな強みであるので、今後は感染症対策を取りながら職人展の魅力を損なわない実施方法を工夫し、事業展開を行う。

5 この施策に係る事務事業（重要度・貢献度順）

番号	事務事業名	歳出 決算額 (千円)	人コスト (千円)	歳出 総額 (千円)	目的に対する指標	
					年度目標値	直近の評価内容
					年度実績値	評価結果
						評価対象年度
1	すみだ北斎美術館管理運営	232,573	4,398	236,971	180000	現状維持
					56978	令和3年度
2	すみだ北斎美術館寄付キャンペーン事業	399,876	8,796	408,672	300000	現状維持
					900254	令和3年度
3	大江戸すみだ職人展事業	450	3,518	3,968	2000	現状維持
					2340	令和3年度
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						

令和4年度 事務事業評価シート

施策	111	郷土の歴史・文化を継承し、発展させる	部内優先順位
事業名	すみだ北斎美術館管理運営費		1
目的	平成28年11月に開館したすみだ北斎美術館の適切な管理運営に努め、PR事業を始め、資料収集、すみだと北斎のPR及び関連事業の充実を図る。		主管課・係(担当)
			文化芸術振興課文化芸術担当 03-5608-6115
対象者	区民及び本区への来街者、北斎に関心のある層		
根拠法令 関連計画	すみだ北斎美術館の管理運営に関する条例及び同施行規則		
実施基準	区独自基準	実施方法 全部委託	人員体制・委託先 常勤職員3・墨田区文化振興財団・丹青社 共同企業体
事業内容	本区で生まれた世界的絵師・葛飾北斎を区民の誇りとして顕彰する「すみだ北斎美術館」の管理運営を行い、区民が文化・芸術にふれる機会を創出するとともに、文化・産業・観光等の地域活性化の拠点として展開する。		
経過	開始年度	平成28年度	終了予定 未定
	平成27年度 指定管理者決定 平成28年度 建築竣工、11/22開館 平成29年度 開館1年目の目標来館者数20万人達成(4月) 平成30年度 来館者数50万人達成(7月) 令和元年度 来館者数75万人達成(1月) 令和3年度 来館者数85万人達成、開館5周年(11月)		
議会質問 の状況	令和3年3月 予算特別委員会 重要文化財等の展示や企画展は、これからどのように計画を立てて実施していくのか。コロナ禍で集客に関しては苦労していると思うが、どのように工夫をして進めていくのか。 (答弁): 今回、北斎美術館で初めて重要文化財の作品を展示し、多くのメディアにも取り上げていただいた。実績をつくって、引き続き文化庁や関係機関の連携を図って、今後も進めていく。集客については、様々なメディア等を通じたPRと併せて、オンライン配信等も使いながらPRに努めていく。		
その他 特記事項	(他区の状況・年間スケジュール・関連部署等)		

予算・決算額推移(単位:千円)	29年度	30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
予算現額(事業費)	142,227	200,079	190,640	247,563	241,365	225,365
A.決算額(令和4年度は見込み)	137,512	195,805	185,279	212,841	232,573	225,365
財源	国					
	都					
	その他	32,684	99,928	89,285	95,437	94,949
一般財源	104,828	95,877	95,994	117,404	137,624	100,376
執行率(%)	96.7%	97.9%	97.2%	86.0%	96.4%	100.0%
B.人コスト		4,922	4,369	4,411	4,398	
総事業決算額(A+B)	137,512	200,727	189,648	217,252	236,971	
予算書P(令和4年度)	P121 6-1		執行実績報告書P(令和3年度)		P55	

予算・決算の内訳（単位：千円）								
令和2年度（決算）			令和3年度（決算）			令和4年度（予算）		
節	概要	金額	節	概要	金額	節	概要	金額
報償費	委員謝礼	251	報償費	委員謝礼	188	報償費	委員謝礼	304
委託料	指定管理料	183,037	委託料	指定管理料外	168,677	委託料	指定管理料外	224,636
備品購入費	資料取得費	8,400	備品購入費	資料取得費	19,200			
損失補填及び賠償金	休館による損失補填	20,772	損失補填及び賠償金	休館による損失補填	44,215			

事業の成果	手段に対する指標 (活動指標)	指標	メディアへの掲載数				単位	件
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	R1	
		60	R7	目標	60	60	60	60
				実績	73	102	78	93
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	60	60	60	60	60	60
	実績	107	108					
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	北斎美術館のメディアへの掲載数で、宣伝・広報の成果を図る指標となるため。目標値については、来館者数が安定していく中でも、高い注目度を集めるべく本数値に設定した。							
	目的に対する指標 (成果指標)	指標	すみだ北斎美術館への来館者数				単位	人
最終目標値		目標年度	基準年(H28)	H29	H30	R1		
95,000		R7	目標	80,000	321,000	220,450	171,000	
			実績	177,707	262,634	177,188	157,034	
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	
目標		172,000	180,000	98,000	95,000	95,000	95,000	
実績	45,070	56,978						
指標の選定理由及び目標値の理由								
区民をはじめ、区外及び海外からの来訪者が、どれだけ北斎の魅力を体感したかを図る指標となるため。目標値については、開館当初に想定していた、開館3年目以降の来館者数を設定した。								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
現状維持	コロナ禍の影響のため、昨年度に続き、来館者数は目標を下回ったものの、メディアでの掲載数は目標を大きく上回っており、引き続き高い注目を集めている。コロナ収束に伴って来館者数を回復できるよう、継続的に魅力ある事業展開と施設の適切な管理運営に努めていく必要がある。

課題・問題点
管理運営業務は要求水準どおりに適切に実施されているが、公開承認施設の認定に向けた活動に注力する必要がある。 新型コロナウイルス感染症対処方針の変更に伴い、入館者数を回復させていくため、広報や企画展の充実を図るとともに、安定した館の運営を行っていく必要がある。

施策	111	郷土の歴史・文化を継承し、発展させる			部内優先順位	
事業名	すみだ北斎美術館寄付キャンペーン経費				2	
目的	平成28年11月に開館したすみだ北斎美術館の適切な管理運営に努め、PR事業を始め、資料収集、寄付キャンペーンを実施し、すみだと北斎のPR及び関連事業の充実を図る。				主管課・係(担当)	
					文化芸術振興課文化芸術担当 03-5608-6115	
対象者	北斎及びすみだ北斎美術館へ関心がある層、本区へのふるさと納税による寄付を検討している方					
根拠法令 関連計画	墨田区北斎基金条例、墨田区北斎基金寄付金取扱要綱、墨田区文化観光基金寄付金取扱要綱					
実施基準	区独自基準	実施方法	一部委託	人員体制・委託先	常勤職員3・株式会社トラストバンク外	
事業内容	すみだ北斎美術館の管理運営費、資料収集、北斎をテーマとしたアートプロジェクト経費等へ充てることを目的に寄付キャンペーンを実施している。ふるさと納税制度を活用して寄付を募集しており、返礼品にはすみだモダンをはじめとした地場産品を寄付者に送付している。					
経過	開始年度	平成27年度		終了予定	未定	
	平成27年度 インターネットによる寄付募集(北斎ふるさと納税)開始 平成28年度 目標寄付金額(5億円)の達成 平成29年度 墨田区文化観光基金への寄付受入開始 令和元年度 複数のふるさと納税サイトでの寄付募集開始(ふるさとチョイス、ふるなび、楽天、さとふる) 令和2年度 ふるさと納税受付サイトを追加(セゾンのふるさと納税、ふるさとプレミアム、auPAYふるさと納税)					
議会議決 の状況	令和3年12月地域産業都市委員会 すみだ北斎美術館開業5年目で基金が23億円まで来ている。より踏み込んだ基金のため方、使い方を詳細に決めたほうがよいと思うがどのように感じているか。 (答弁)：基金の活用方法については、施設の大規模修繕や管理運営費、資料収集費、大規模な企画展を行った場合の事業に充てさせていただくという報告を議会にさせていただいている。基金が大体34億円に近づいた段階で、もう一度ご相談させていただいて、活用方策も考えたいと思っている。					
その他 特記事項	(他区の状況・年間スケジュール・関連部署等) 令和4年度寄付目標額:3億円					

予算・決算額推移(単位:千円)		29年度	30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
予算現額(事業費)		129,441	109,696	200,487	319,890	462,612	153,532
A.決算額(令和4年度は見込み)		129,058	72,685	177,675	300,965	399,876	153,532
財源	国						
	都						
	その他	1	1	1	1	1	1
一般財源		129,057	72,684	177,674	300,964	399,875	153,531
執行率(%)		99.7%	66.3%	88.6%	94.1%	86.4%	100.0%
B.人コスト			9,843	8,738	8,822	8,796	
総事業決算額(A+B)		129,058	82,528	186,413	309,787	408,672	
予算書P(令和4年度)	P117-118 1-4,5	執行実績報告書P(令和3年度)			P51 4-2,5-2		

予算・決算の内訳（単位：千円）								
令和2年度（決算）			令和3年度（決算）			令和4年度（予算）		
節	概要	金額	節	概要	金額	節	概要	金額
委託料	ふるさと納税業務委託料外	286,049	委託料	ふるさと納税業務委託料外	385,353	委託料	ふるさと納税業務委託料外	147,667
役務費	決済手数料料外	11,425	役務費	決済手数料料外	14,406	役務費	決済手数料料外	5,527

事業の 成 果	手 段 に 対する指標 (活動指標)	指 標	寄付キャンペーン寄付金額				単 位	千円
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1
		145,000	R7	目標	150,000	145,000	200,000	180,000
				実績	232,102	267,902	155,836	379,921
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
	目標	250,000	300,000	300,000	145,000	145,000	145,000	
	実績	666,577	900,254					
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	北斎美術館の管理運営、資料収集、展覧会事業等の充実を図るには、継続して寄付を募る必要があるため。目標値については、これまでの実績と管理運営費や資料収集等に要する費用見込みを基に設定。							
	目 的 に 対する指標 (成果指標)	指 標	すみだ北斎美術館に対する寄付件数				単 位	件
最終目標値		目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1	
3,000		R7	目標	3,000	3,000	3,000	3,000	
			実績	3,752	4,222	2,544	5,409	
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	
目標	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000		
実績	8,165	10,985						
指標の選定理由及び目標値の理由								
北斎美術館事業を推進していく上では、墨田区内外からの継続した支援（寄付）が必要であることから、目標値については、寄付件数を支援者数と考慮して設定。								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
現状維持	令和3年度は、寄付目標額を大きく上回り、約9億円の寄付を募ることができた。引き続き、北斎美術館の管理運営、資料収集、展覧会事業等の充実を図るため寄付募集を実施する必要がある。

課題・問題点
北斎美術館の管理運営や北斎の資料収集等には、寄付を財源としていくため、引き続き寄付キャンペーンを継続して実施する必要がある。

施策	111	郷土の歴史・文化を継承し、発展させる			部内優先順位
事業名	大江戸すみだ職人展事業				3
目的	全国でも有数の「ものづくりのまち」として発展を遂げてきた墨田区において、伝統工芸分野における優れた技術・技能を区内外に広くPRし、作品の付加価値を高めていくことに寄与することを目的として展示会を開催する。				主管課・係(担当)
					文化芸術振興課文化行事担当 03-5608-6180
対象者	区民、区への来訪者				
根拠法令 関連計画	大江戸すみだ職人展実行委員会補助金交付要綱				
実施基準	区独自基準	実施方法	一部委託	人員体制・委託先	常勤職員 3人
事業内容	実施会場における職人の実演・伝統工芸品の展示のほか、訪れた方の興味を高め理解を深めてもらうため、職人や工芸品・制作品を紹介するパネルの展示、工芸体験を実施している。北斎美術館講座室MARUGEN100及び緑町公園で、大江戸すみだ職人展実行委員会と区が共催。 産業振興課、地域教育支援課に「伝統工芸保存会」「パルティール」等への支援事業が行われているため、本事業については、平成30年度から実施場所を北斎美術館に変更したうえでプロモーションを工夫し、リピーターや愛好家、外国人旅行者も含め、より多くの人に職人の技や制作品を目にもらい、関心を持ち評価してもらう事業内容とした。				
経過	開始年度	平成20年度		終了予定	
	「すみだ匠の競演」の拡充事業として、平成20年から開催。平成20年～21年は江戸東京博物館、平成22年～23年はリバーサイドホール、平成24年～29年はすみだまち処、そして平成30年～令和3年は、外国人旅行者も含めさらに多くの方に知っていただく北斎美術館講座室で実施した。(令和2年度は中止) 従来、リバーサイドホールで交互に開催してきた「匠の競演」(区の直接執行事業)と「伝統工芸展」(補助金事業)について、平成20年、来場者増加の観点から、観光課の「ぶらり両国まちかど展」とのタイアップ事業としてリニューアルし、第1回目の「大江戸すみだ職人展」を江戸東京博物館で実施した。				
議会質問 の状況					
その他 特記事項	令和3年度はコロナウイルス感染防止策の一つとして、工芸体験は行わず実演のみ行った。令和4年度は3年ぶりに、参加者が実際に職人の仕事を体験可能な、工芸体験を実施予定である。				

予算・決算額推移(単位:千円)		29年度	30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
予算現額(事業費)		950	1,200	1,400	0	450	1,200
A.決算額(令和4年度は見込み)		950	1,200	1,400	0	450	1,200
財源	国						
	都						
	その他						
一般財源		950	1,200	1,400	0	450	1,200
執行率(%)		100.0%	100.0%	100.0%	#DIV/0!	100.0%	100.0%
B.人コスト			3,937	3,495	3,495	2,913	
総事業決算額(A+B)		950	5,137	4,895	3,495	3,363	
予算書P(令和4年度)	P118-6	執行実績報告書P(令和3年度)			P51-6		

予算・決算の内訳（単位：千円）								
令和2年度（決算）			令和3年度（決算）			令和4年度（予算）		
節	概要	金額	節	概要	金額	節	概要	金額
負担金補助及び交付金	実行委員会への補助金	0	負担金補助及び交付金	実行委員会への補助金	450	負担金補助及び交付金	実行委員会への補助金	1,400

事業の 成 果	手 段 に 対する指標 (活動指標)	指 標	区町内会へのポスター配布数				単 位	枚
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1
		1700	R7	目 標	30,000	30,000	30,000	1,700
				実 績	31,100	31,100	31,100	1,700
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目 標	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700	1700
		実 績	-	1,710				
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	より多くの方に広く告知することが来場者数の増加につながるため。 令和元年度は、限られた予算の中で効果的なPRを行うべく広報活動の見直しを行った。具体的には、区民への周知については、町会・施設を中心に目に留まるポスターになるよう内容を工夫して開催告知をすることに注力しつつ、区広報媒体を活用することによって従来よりもコストを抑えるようにした。広報活動の見直しを行ったが、ポスター配布は継続したので、以降の活動指標を区内町会へのポスター配布数に変更した。							
	目 的 に 対する指標 (成果指標)	指 標	展示会場への来場者数				単 位	人
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1
		2,500	R7	目 標	8,000	8,500	8,500	2,000
				実 績	8,769	6,440	3,802	2,340
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目 標	2,000	2,100	2,200	2,300	2,400	2,500
	実 績	-	874					
指標の選定理由及び目標値の理由								
展示会場への来場者数が広くPRできたことを示す指標となるため。 平成30年度に開催会場をすみだまち処からすみだ北斎美術館(講座室)へ変更した。従来はまち処全体の来場者数での集計であったが、美術館(講座室)のみの来場者数集計になったこと、開催期間日数の変更に伴い、令和元年度から目標値についても変更した。								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
現状維持	実施場所やプロモーションを工夫したことで、より多くの方に興味を持っていただくことができ、参加した職人も手ごたえを感じている。来場者と職人の距離が近いことがこの事業の大きな強みであるため、感染症対策を実施し、魅力を発揮できる実施方法の見直しが必要になる。

課題・問題点
産業振興課や地域教育支援課で実施されている事業との差別化を図りながら、実施方法の一層の工夫により、老若男女を問わずより幅広く興味を持っていただくことが課題である。 また、今後はコロナ対策を徹底し、魅力ある事業実施を工夫していく必要がある。

補助金名	大江戸すみだ職人展実行委員会補助金			主管課・係（担当）		
根拠法令	大江戸すみだ職人展実行委員会補助金要綱			文化芸術振興課文化行事担当		
補助概要	大江戸すみだ職人展を実施するにあたり必要となるPR経費や設営費への補助			03-5608-6180		
目的	全国でも有数の「ものづくりのまち」として発展を遂げてきた墨田区において、伝統工芸分野における優れた技術・技能を区内外に広くPRし、市場における作品の付加価値を高めていく。					
対象	区民、区への来訪者					
基準	区独自基準					
補助条件	<p>大江戸すみだ職人展実行委員会補助金交付要綱</p> <p>第2条 区長は実行委員会が行う次の事業に要する経費を予算の範囲内において補助金として交付する。</p> <p>(1) 大江戸すみだ職人展に関する運営経費</p> <p>(2) 前号に掲げるもののほか、区長が必要と認める事業の経費</p>					
経過	開始年度	平成20年度		終了予定		
	現在の要綱の適用以前は、「墨田区伝統手芸作品展示会補助金交付要綱」により、当時の文化振興課と生涯学習課で1年ごとに補助金を支出していた。平成20年度から「大江戸すみだ職人展実行委員会補助金要綱」により補助している。					
議会質問の状況						
その他特記事項	令和3年度は2年ぶりに「大江戸すみだ職人展」を実施したが、コロナウイルス感染防止策の一つとして、工芸体験は行わず実演のみ行った。令和4年度は、感染状況を踏まえて「大江戸すみだ職人展」実行委員会と協議のうえ、開催する予定である。さらに3年ぶりに参加者が実際に職人の仕事を体験可能な、工芸体験を実施予定である。					

予算・決算額推移（千円）		29年度	30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
予算額（事業費）		950	1,200	1,400	0	450	1,200
決算額（令和4年度は見込み）		950	1,200	1,400	0	450	1,200
財源	国						
	都						
	その他						
一般財源		950	1,200	1,400	0	450	1,200
執行率（％）		100.0%	100.0%	100.0%	#DIV/0!	100.0%	100.0%

補助金の成果	手段に対する指標 (活動指標)	指標	区町内会へのポスター配布数				単位	枚
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		1,700	R7	目標	30,000	30,000	30,000	1,700
				実績	31,100	31,100	31,100	1,700
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700
	実績	-	1,710					
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	より多くの方に広く告知することが来場者数の増加につながるため。令和元年度は、限られた予算の中で効果的なPRを行うべく広報活動の見直しを行った。具体的には、区民への周知については、町会・施設を中心に目に留まるポスターになるよう内容を工夫して開催告知することに注力しつつ、区広報媒体を活用することによって従来よりもコストを抑えるようにした。広報活動の見直しを行ったが、ポスター配布は継続したので、以降の活動指標を区町内会へのポスター配布数に変更した。							
	目的に対する指標 (成果指標)	指標	展示会場への来場者数				単位	人
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		2,500	R7	目標	8,000	8,500	8,500	2,000
実績				8,769	6,440	3,802	2,340	
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	
目標		2,000	2,100	2,200	2,300	2,400	2,500	
実績	-	874						
指標の選定理由及び目標値の理由								
展示会場への来場者数が広くPRできたことを示す指標となるため。平成30年度に開催会場をすみだまち処からすみだ北斎美術館(講座室)へ変更した。従来はまち処全体の来場者数での集計であったが、美術館(講座室)のみの来場者数集計になったことと、開催期間日数の変更に伴い、令和元年度から目標値についても変更した。								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
現状維持	実施場所やプロモーションを工夫したことで、より多くの方に興味を持っていただくことができ、参加した職人も手ごたえを感じている。来場者と職人の距離が近いことがこの事業の大きな強みであるので、コロナ禍において、この利点を生かすことができるよう、魅力を発揮できる実施方法の見直しが必要になる。

課題・問題点
職人の技術と作品を紹介する他の事業と差別化を図りながら、実施方法の一層の工夫により、老若男女を問わずより幅広く興味を持っていただくことが課題である。 令和4年度は、コロナ対策を徹底し、実施していく必要がある。